

2003年2月22日(土)

人の活動・交通行動分析における空間解析研究の将来展望

東京大学 新領域創成科学研究科環境学専攻 大森宣暁

交通計画や交通政策を含めて人の活動・交通パターンに影響を与える公共政策の立案と評価のためには、都市空間における人の活動・交通パターンの実態とその背後にある意思決定プロセスを理解することが必要である。近年のGISソフトウェアの発展と普及および都市空間や社会経済活動に関する様々なデータベースの整備により、より現実に対応した都市空間の表現および空間解析が可能となった。さらに、ポジショニング技術およびパソコン、Webなどを利用した行動調査手法の開発により、従来把握することが困難であった活動・交通パターンに関する詳細な時空間行動軌跡データや複雑な意思決定プロセスに関するデータを取得することが可能になった。しかし、都市空間における人の活動・交通パターンの理解と政策評価のために、これらの都市空間データと人の活動・交通行動データを適切に組み合わせる有効に活用する手法に関しては、まだ検討の余地が多分にあると考えられる。本ワークショップにおいては、IT時代における今後のライフスタイルや価値観の変化に対応した都市活動システムのあり方を検討することをも視野に入れて、都市空間データと人の活動・交通行動データを有効に活用することを念頭に、以下の点に着目した議論を行いたい。

- ・ 詳細な空間データベース
  - 交通主体
  - 交通ネットワーク
  - 活動機会
- ・ 静的分析から動的分析へ
  - 都市空間要素の時間変動
  - リアルタイム・モニタリングと情報提供
  - 双方向通信とリスケジューリング
- ・ 2次元から3次元へ
  - 移動空間の評価
  - 環境負荷量、環境曝露量の推計
- ・ 実空間 + 仮想空間
  - サイバースペースでの活動機会
  - 移動中の活動
- ・ その他